

Neues in Nara

Nr.44

2013年6月20日



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashi@mercury.sannet.ne.jp) 峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

“これは会員相互のコミュニケーションツールです。皆様からの情報は編集委員へ”

●行事予定

ビア・アーベント

日時：7月27日(土) 17時30分～19時30分

場所：大安寺境内(雨天決行)

参加費：2,500円(学生 1,500円)

家族・友人をお誘い頂き、多数の参加をお待ちします。詳細は同封の案内チラシをご参照願います。

●行事報告

1. 奈良日独協会・平成25年度年次総会

5月12日大安寺にて開催され、河野会長の開会挨拶の後、隅田理事を議長に選出。全ての議案が提案通り承認されました。25年度の新しい試みとして会員が自由に参加し、勉強・懇親の場を作ってはどうかとの提案がなされ「シュタムティッシュ」を始めることになりました。

2. シュタムティッシュ

第1回の「シュタムティッシュ」会合が6月8日(土)大安寺催事棟にて開催され会員13名が参加。足立勝洋理事のユーモア溢れるガイダンスにより、初回に相応しい「ドイツの歴史と日本との関係」について、皆で和気藹々におしゃべりの輪が広がり楽しい集いとなりました。次回は9月の週末を予定していますので奮ってご参加下さい。



3. ドイツにおけるエネルギー変革の映画と「エリーゼ条約」記念ポスター展

4月26日大阪神戸ドイツ総領事館において、ドイツのエネルギー変革をテーマとする映画の上映と独仏「エリーゼ条約」50周年記念ポスター展が開催され、当協会より近東副会長と峯本理事が参加した。(左上写真：オルブリッヒ総領事ご夫妻と近東副会長)

●会員だより

タミヤ製作所社長 民谷浩一さん

「忘れられない思い出」

ヨーロッパへ初めて行ったのが1965年の冬。2週間の予定で、イギリス、フランス、ドイツと欧州3ヶ国をガイドブック片手に列車の旅。イギリス、フランスの2ヶ国はあまり印象がなかったが

ドイツは強烈であった。同じ敗戦国なのにどこか雰囲気が違う。例えば日本の住宅は土地値段で建物はオマケ。しかしドイツでは建物値段で土地がオマケ。列車も全て1等車、2等車があり日本の温風暖房と違って床暖房で窓に曇りはない。なんとも見事なレストランカーが急行車両に連結しており、その車窓は外から見ると鏡のようで、中から見ると外の景色がそんな見え、やはり結露がない。



列車もさることながら、私は硝子のほうに興味津々。このような硝子をどこで製造しているのかを調べた結果、フランクフルト近くのハーナウ市にあるライボルト・ヘラウス社のプラントであることがわかった。早速、工場見学に行きたいとテレックスで(テープに穴をあけて)送信。そして先方からは歓迎するという返事をいただいた。真空技術では世界一のこの会社、日本の島津製作所にもライボルトの技術があると聞く。年に4回日参。日本に持ち帰りたいという気持ちが強くなったが、プライスはタミヤ製作所年間売り上げ(利益ではなく売り上げ)の6年分!一度はあきらめたがやはり諦めきれずに再度行き交渉そして契約。サインをする手が震えて字にならない。片手を添えて書いたシグネチャーは地震計のグラフのような字。当然二度と同じサインは書けない。「投資」ではなく「投棄」であるとも思ったほどであった。(私の人生これまでか)

そして1983年試験運転完了、全長58m、全幅9m、(電気代は月に480万)日本で初めての高性能熱線反射ガラス製造装置が完成。単価はタミヤ製作所で決め販売は4年間タミヤ製作所が独占した。このような例は硝子業界では無い。あれから30年、今でも現役で600馬力の真空ポンプ2台がうなっている。ドイツでなければ出来ない技術。名高いドクターが380名も開発に携わってきた。そして今タミヤ製作所のもうひとつの主力商品であるソーラー発電の製造マシンも全てドイツ製であることも最後に書き添えておきます。